

新島庭園の紅梅も一輪ずつ花開き、厳しい寒さの中にも柔らかな日差しが感じられるようになりました。

65期の卒業式までひと月あまりです。2月からは家庭学習に入ります。3年間あるいは6年間の学園生活を感慨深く振り返っている人も多いのではないのでしょうか。

一般受験の皆さんは、追い込みの真っ最中ですね。まずは目の前の目標に向かって全力を尽くしてください。

進路が決定した皆さんは、この1か月を新生活の準備期間として有意義に過ごしてください。



## これまでにあったこと

大学入試センター試験 1/16(土)、17(日) 高崎経済大学

64名が受験し、特にトラブルもなく無事行われました。担任団も、会場の正門前で受験グッズを一人ひとりに手渡ししながら激励しました。

センター試験自己採点 1/18(月) フィリアホール1階

新島襄召天記念礼拝 奨励題：「取るか、与えるか」

1/20(水)3限 礼拝堂 説教者：村上みか先生(同志社大学神学部教授)

【要旨】明治に入って新しい教育が始まりましたが、新島先生は当時の日本の教育の風潮に対し、「自分が食べていくための、自分のことしか考えない」勉強をしている若者の多いことをと危惧していました。彼は「多くを学んだ者は、学んでいない者よりもしばしば自己中心的になる」とまで言っています。世の中から仕事、お金、地位や名誉を「取る」ために私たちは勉強しているのでしょうか。厳しい時代だからこそ、私たちはなおさら「与える」よりも「取る」ことを優先してしまいがちです。しかし聖書に「受けるよりは与える方が幸いである」(使徒 20:35)とあるように、人に与えて喜んでもらう幸せこそが聖書のいう真の幸せです。

ところがこれは努力してできるというものではありません。むしろ「自分にはできない」ことがよく自覚できている人が、できるようになるのです。自分の弱さがよく分かる人ほど謙虚になり、全てに感謝することができます。与える生き方とは、自分が生きることが許されていることを神様に心から感謝できる人が、他者をもまた一人の人間として大切に作る生き方のことです。J-popに歌われているような、誰かを「好きになる」ような「愛」とは違うのです。自分の限界を自覚して謙虚になり、困っている人に手を貸し、泣く人と一緒に泣く生き方を目指したいものです。そしてこれは最終的には「敵を愛する」ということにもつながります。このときの「愛」も同様に「与える生き方」のことです。いっぽうの頬を打たれたら「倍返し」するのではなく「倍受ける」ことが、悪の連鎖、憎しみの連鎖を止める道なのです。

センターリサーチ 1/21(木)～

自己採点の集計結果をもとに、出願すべき大学・学部についてクラス担任から面談指導を受けました。また、必要に応じて担任以外の先生からのアドバイスも受けました。

今年度の予想平均点は文系、理系とも総合点では昨年度並みとのことです。科目による得点調整はありません。なお、私大のセンター利用入試については、募集枠も小さくボーダーラインも個別試験より高いので、こちらは基本的に本命狙いには使いません。よい判定が出ないからといって落ち込む必要は全くありません。国公立・私立とも、個別試験に向けて全力を傾けましょう。

# これからの予定

家庭学習期間 2/1(月)～2/27(土)

2 / 29 (月) 通常登校 学校スリッパ使用、服装・化粧・頭髪チェックあり  
交通講話  
卒業式予行  
同窓会入会式  
タイムカプセル設置セレモニー

3 / 1 (火) 通常登校、HR 待機  
入場口移動 9:45  
卒業式 10:00～

## ◆卒業式予行と卒業式に向けて

おごそかで、多くの方に祝福していただける卒業式にするために、以下の点に気をつけてください。

- 染髪、化粧等の問題があれば、卒業式には出席できません。保護者の方を悲しませるような行動はくれぐれも慎んでください。
- 服装についての確認  
女子 黒タイツ禁止、スカート丈を短くしない  
男子 ネクタイ着用
- パフォーマンス、かけ声禁止

### ※保護者の皆様へ

卒業式のご案内と指定駐車場のお知らせは学校から郵送されます。クラスによって駐車場が異なります。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## ◆家庭学習中の過ごし方

進路決定者には、許可を得た人のみアルバイトが認められています。また、2月以降は自動車教習所への申し込みも可能となります。しかし春休みではありません。進学先から課されている課題をきちんとやったり、進学後の学習に備えて新聞（同じテーマの読み比べがお勧めです）や本を読む等の幅広い学習をしてください。

3月31日までは皆さんの身分は新島学園高等学校の生徒です。新島学園生としての自覚をもって節度ある行動をとってください。また、進学が決定した人もそうでない人も、3月末までは新島学園の高校生として学割を利用できます。

## ◆単位未修得者の追試

単位未修得科目のある人は、2月までに単位を取らないと卒業式には出席できません。追試対象者はクラス担任と教科・科目担任の指導を受け、早めに単位を取ってください。

## ◆決定者課題の未合格者指導

1月末の学年団判断で課題未達成と判定された人は、2月も登校（制服）してもらいます。

## ◆進路部からのお願い

- ①赤本や受験参考書等、不要となった本を後輩のためにぜひご寄付ください。
- ②入試が終わった人は、受験レポートを提出してください。記入用紙は職員室にあります。

(受験生は裏へ)

# 私大も国公立二次も、最後の最後まであきらめない！

3月入試は私大入試も国公立前期試験も、そして卒業式も終わり、気が抜けてしまう受験生が多いものです。しかしそこがチャンスです。国公立大学は、前期で入学手続をした人は、後期を受験したとしても欠席扱いになります。したがって、後期はかなりの欠席率になるのがふつうです。しかも1年後輩の人たちはまだ受験できません。つまり、少人数の枠を少人数で争う入試のため、3月に合格を勝ち取るのは例年「最後まで集中力を切らさなかった人」なのです。

たとえ来年もチャレンジする、という場合でも3月入試、後期試験は全力で受けるべきです。来年度の入試こそ「後がない」のですから、チャンスを粗末にできるはずがありません。そのリハーサルでもあるのです。

## 2月～3月の自習室開室について

2/1(月)～3/14(月)の平日 8:30～17:30、土 8:30～15:30 西校舎高3 ABの教室を自習室とします。制服登校です。ただし2/12(金)、2/13(土)、2/16(火)、3/1(火)は閉室します。

授業がない時は学習室I IIも利用可能です。早起き等、学習ペースの維持のためにも非常に有効ですし、先生方もみなさんの質問を待っています。ぜひ利用しましょう！

## 個別試験に向けて

### ①課題を明確にして学習する＝計画的に学習する

特にどんな問題をやらなければならないのかは、赤本などの過去問で傾向をつかみましょう。ただし、基礎が身につけていないがために過去問に対応できないようであれば、勇気を持って基礎に立ち返るべきです。

### ②基礎に忠実に＝できるところで確実に得点することが第一

個別試験にはタイプがあります。基礎的な問題で高得点を要求する看護系などの入試、毎年特定の分野が必ず出題される入試、いろいろな難易度の問題を並べる入試などです。また、各教科の出題者も大学・学部ごとにある程度決まっていたり、人が代わったとしてもある程度は前年度の難易度や出題方針を踏襲したりするものです。つまり各大学・学部の試験には「人格」のようなものがあると思ったほうがいいのです。例えば早稲田大なら「早稲田さん」だと思って対話のつもりで丁寧につきあうことが、「やりとり」を成功させる秘訣です。記述問題はもちろん、マーク試験にもこれはいえます。

### ③試験会場へは自作のノートを持っていく＝待ち時間にはこのノートを見る

自作のノートとは、自分の弱点分野や頭で整理しきれないことが書いてある、今までコツコツと作りあげてきたノートのことです。試験の待ち時間には、愛着のあるこのノートだけを見直すのです。単語帳や問題集、参考書では範囲が広すぎて散漫になってしまい、かえって焦りを助長しかねません。自分にとって「これだけは」ということが書いてあるノートを確認する方が、何かと落ち着かない試験前にはずっと有効です。自分の過去の失敗を踏まえた「戒めの言葉」を書いておくのもよいでしょう。試験会場に持っていくノートを日々充実させていく作業こそ、この時期に是非やってほしいことです。

### ④試験場は前日に下見

大学の試験会場は、必ずしも志望学部のあるキャンパスとは限りません。受験票や送られてきた書類を頼りに、一度受験会場まで行くリハーサルをしておきましょう。当日朝のストレスを減らすことは試験で100%実力を発揮するためにも大切です。